

平成19年度経済学部
第3年次編入学（昼間コース）・転部
試 験 問 題

【科 目】 専門科目〔経済学基礎（マクロ経済学分野，ミクロ経済学分野
マルクス経済学分野），経営学基礎，会計学基礎〕

【時 間】 60分

- 【注 意】
- 1 この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開かないでください。
 - 2 この問題冊子には、経済学基礎（マクロ経済学分野，ミクロ経済学分野，マルクス経済学分野），経営学基礎，会計学基礎の問題が綴ってあります。（落丁・乱丁・印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は、監督者に申し出てください。）
 - 3 解答は、出願時に届け出た1科目及び1分野を解答してください。
出願時に届け出た科目及び分野以外の問題を解答した場合は、解答を無効とします。
 - 4 解答用紙の指定箇所に、出願時に届け出た科目及び分野とその問題記号，受験番号を記入してください。
 - 5 問題の解答は、解答用紙に記入してください。
解答用紙が不足する場合は、追加の解答用紙を配付しますので、手を挙げて申し出てください。
 - 6 下書用紙に解答を記入しても無効です。
 - 7 試験終了後、この問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

平成 19 年度 経済学 部
第 3 年次編入学 (昼間コース) ・ 転部
試 験 問 題

専 門 科 目
「 経 済 学 基 礎 」
(マクロ経済学分野)

【問題記号：A1】

以下の設問にすべて答えなさい。

I. マクロ経済モデルが以下で示されるものとする。

$$Y=C+I+G+X-M \quad (1 \text{ 式})$$

$$C=0.8(Y-T) \quad (2 \text{ 式})$$

$$T=0.25Y \quad (3 \text{ 式})$$

$$M=0.1Y \quad (4 \text{ 式})$$

ただし、Y：国内総生産、C：消費支出、I：投資支出、G：政府支出、X：輸出、
M：輸入、T：税収

- (1) 閉鎖経済の仮定 (又は、 $X=M$) のもとで、均衡国内総生産を求めなさい。ただし、 $I=25$ 、 $G=15$ とする。
- (2) 閉鎖経済の仮定のもとで、問題 (1) の均衡国内総生産を 10% 引き上げるためには、他の条件を一定として政府支出をいくら増加させればよいか求めなさい。
- (3) 開放経済の仮定のもとで、経常収支が 10 の黒字を計上しているとき、収支を均衡させるためには、他の条件を一定として政府支出をいくら増加させればよいか求めなさい。

II. 以下の①から⑥の空欄に当てはまる語句を語群より選んで記号で答えなさい。

1. 2004 年度の日本の国内総生産 (名目) は 496 兆円である。(1 式) の国内総生産を構成する項目のうち、最大である (①) はそのおよそ (②) % である。

2. 分配面からみた国内総生産を定義すると次式になる。

$$Y=C+S+T \quad (\text{ただし、} S: \text{貯蓄}) \quad (5 \text{ 式})$$

経常収支は、(5 式) と (1 式) より次式のように定義できる。

$$X-M = (\text{ ③ }) + (\text{ ④ }) \quad (6 \text{ 式})$$

(6 式) より、経常収支が黒字ならば、(⑤) か (⑥) のいずれかまた両方が生じなければならない。

【語群】

ア：C、イ：I、ウ：G、エ：X-M、オ：40、カ：50、キ：60、
ク：S-I、ケ：I-S、コ：C+I、サ：S-T、シ：T-G、ス：G-T、
セ：民間貯蓄超過、ソ：民間投資超過、タ：財政赤字、チ：財政黒字

平成 19 年度 経済学部
第 3 年次編入学 (昼間コース) ・ 転部
試 験 問 題

専 門 科 目
「 経 済 学 基 礎 」
(ミ ク ロ 経 済 学 分 野)

【問題記号：A2】

以下の設問にすべて答えよ。

1. x 財、 y 財の 2 財を消費するある個人の効用関数が

$$U = 2x^{\frac{1}{2}}y^{\frac{1}{2}}$$

U : 効用、 x : x 財消費量、 y : y 財消費量

で示されているとする。 x 財、 y 財の価格をそれぞれ p_x 、 p_y とする。また所得を m とする。

- (a) x 財、 y 財の限界効用を求めよ。
- (b) この消費者の予算線を示せ。
- (c) 効用最大化条件を xy 平面に図示せよ。
- (d) x 財、 y 財の需要関数を求めよ。
- (e) 消費者の x 財に対する需要の所得弾力性を求めよ。

2. ある企業の生産関数が以下のように示される。

$$q = KL$$

q : 生産量、 K : 資本量、 L : 労働量とする。

- (a) この企業の技術的限界代替率を求めよ。
- (b) 限界生産力逓減と規模に関する収穫逓減の違いについて述べよ。

平成19年度経済学部
第3年次編入学（昼間コース）・転部
試験 問題

専門科目
「経済学基礎」
(マルクス経済学分野)

【問題記号：A3】

次の [I] ~ [V] の問題から二つ選択して答えなさい。なお、選択した問題番号を記してから解答すること。

- [I] アダム・スミスに多大な影響を与えたことで知られているケネーは重農学派を代表する学者であり、一国の経済の仕組みを簡単な表で示した。このケネーの経済表について説明し、重農学派の特徴について論じなさい。
- [II] 商品の定義は使用価値と価値という二つの要因を有することから与えることができる。この商品の二要因について論じなさい。
- [III] 資本が利潤の一部を資本に加え、より多くの利潤を追求することを資本の蓄積という。投下資本を不変資本と可変資本の構成比に着目し、産業資本の資本蓄積を考察すると、資本蓄積には二つの方法があることがわかる。この二様の資本蓄積について論じなさい。
- [IV] 株式会社の特徴の一つとして、株主（所有者）以外の人が会社を經營すること、いわゆる所有と經營の分離があげられる。このことから、企業は誰が支配しているのかということが問題とされるようになった。これについてこれまでどのような議論がなされてきたのかを簡潔に紹介したうえで、今日の企業ではどのように考えられるかを論じなさい。
- [V] 東アジアは、1970年代にまずアジア NIES と呼ばれるようになった国・地域が順調な経済成長を達成し、80年代も維持した。その後、ASEAN 諸国、さらには、中国が続き、現在の世界経済の構造は大きく変わってきている。東アジアの国・地域の成長過程について、東アジアの国・地域間の分業がいわゆる垂直的分業とは異なっていること等に留意して、簡潔に紹介しなさい。また、なぜ東アジア経済が成長したのかということについてあなたの考えを述べなさい。

平成19年度経済学部
第3年次編入学(昼間コース)・転部
試験問題

専門科目
「経営学基礎」

【問題記号：B】

次の6問の中から2問を選択して日本語で答えなさい。なお、必ず選択した問題番号(1)~(6)を明記してから解答すること。

また、3問以上に解答した場合、すべての答案が無効となるので注意すること。

- (1) 戦略をとらえるアプローチとして、ポジショニング・スクールと経営資源スクールとがある。それぞれどのような考え方を説明しなさい。
- (2) ビジネスシステム構築にあたって、決定すべき基本を説明しなさい。
- (3) 株式会社制度のメリットと問題点を説明しなさい。
- (4) 組織が与えるインセンティブを説明しなさい。
- (5) 組織文化の意義と機能を説明しなさい。
- (6) コーポレートガバナンスと企業の社会的責任(CSR)との関係について説明しなさい。

平成19年度経済学部
第3年次編入学(昼間コース)・転部
試験 問 題

専 門 科 目
「会計学基礎」

【問題記号：C】

財務会計領域と管理会計領域のうち1領域を選択し、設問に答えなさい。

財務会計領域（2問とも解答すること）

- [I] 資産評価における①取得原価基準と②時価基準について、それぞれの具体例を挙げつつ、その意義・特徴を比較して説明しなさい。
- [II] 経営分析における①収益性に関する指標と②安全性に関する指標について、それぞれの指標の名称及び内容（計算式）を複数提示した上で、それらの具体的な活用方法について説明しなさい。

管理会計領域（2問とも解答すること）

- [I] 新潟繊維株式会社は、1種類の製品のみを製造・販売している衣類メーカーである。同社は販売価格2万円の製品を、注文を受けてから製造・引渡しを行っている。平成〇年11月の直接原価計算法による損益計算書は下記の通りである。

月次損益計算書

新潟繊維株式会社	自平成〇年11月1日	至11月30日	(単位：万円)
売上高		10,000	
変動製造原価		3,500	
<u>変動販売費・一般管理費</u>		<u>1,500</u>	
貢献利益		5,000	
固定製造原価		2,000	
<u>固定販売費・一般管理費</u>		<u>1,000</u>	
営業利益		2,000	

- (1) 損益分岐点における売上高を求め、その計算式と答えを書きなさい。
- (2) 12月の利益を4,000万円と設定したいときの目標売上数量を求め、その計算式と答えを書きなさい。
- (3) 売上高の20%の利益を確保したいときの目標売上数量を求め、その計算式と答えを書きなさい。
- (4) 11月の固定費が140%、変動費が120%値上がりしたときの12月の損益分岐点における売上高を求め、その計算式と答えを書きなさい。

- [II] 直接原価計算と全部原価計算により計算された利益額が異なる理由を説明しなさい。